

の度を行つた問題提起を行い、またその闘いの過程の中で加えられる権力側の干渉、衝突を通じての神聖な手エラタンと日大斗争の質でも

『学国斗争と政治斗争』

— 綱 乱 —

学国斗争と政治斗争の観点で多くの大衆は、この二つを別々の問題として意識化しようとしている。しかしながら学国の個別の特殊矛盾の根柢が、本質が、どこに起因しているのかを我々は見て取る必要があるだろう。日大斗争において、30、40人に象徴的に見られる所の政府ブルジョアジの「テクノロジー攻勢」、又、衆参両院を強行通過した所の「大學生法」を以て追従する大衆当局者、又、新たなる放送大学設置の具現化。等々といった型で教育を帝国主義的に更に改編して行く。この様な中で学国の個別矛盾を斗争事としての様相を呈現させたが、今、尚度々いまでもない事である。東大斗争における「新国主主義」の経理がどこから生まれ来たのであろうか。それは去れば個別の矛盾を徹底的に分析する事から生まれ、又、自己批判、自己否定の上から生まれ来たのである。

現在の空国の学国の学国斗争の質が「新大解体」の経理を踏まえた上なる前進を以て様として行っているのである。如何なる個別斗争も全人民的政治斗争に発展する道を内包しており、又、発展させなければならぬのである。明らかに階級斗争の全体の発展の中に学国斗争のそれを観念づけなければならない。

⑤ かくて闘い抜く中で社会的批判が、マスコミ政府の一体となつた暴力学生キャンペーンを行つた中で強まり、実力斗争中へと高揚した日大斗争が、その質的飛躍を行つた方が、たゆみに実力斗争に逆に足をどらぬで没落してゆくという現象が生じてきた。以上が大意は有日大斗争史である。しかしこの中に大衆斗争の発生、発展、そして衰退の要因が含まれている。日大に属する全ての人々に直接に關係し、しかも社会において一般に悪として確証されていることが生じることにより古田体制不信が今まで矛盾を感じながら、人々にまで浸透した。しかしそれだけでは斗争は生じなかつた。日大を支配していた右翼を突破することにより、つまり支配権力は絶たれて行く打ちやぶることができるといふことが前衛部隊により実現されたからであつた。そのうえ日大斗争はまさに正義の闘いなのである。そして日大体制の幻想性を完全に粉砕した。たゞそれだけではなくやらなかつた。理由は後述のため、我々大衆団交を信じ、学友の勝利を感じた。またこれまで正義だつた闘いが暴力学生キャンペーンにより至極に大衆的支持を失つていつた。(この他に大衆の日和見性もあるがこれについては後述べたい)以上を総括すれば、大衆斗争の要因は、多くの大衆に直接に關係し、かつ今までの社会道義に於てしてみても正義の闘いであり、これを品出し闘争的に闘う前衛部隊が必要である。敗北の要因は、大衆から遊離することをおそれ、古田から獲得物を得ようとするあまり個別改良斗争の「カラ」にとどまり古田体制の幻想性を完全に粉砕しなかつた。また権力によつてネツ造された正義を乗り越えることが出来なかつた。又にある。そのうえ状況の変化により個別改良斗争的体質を充分なる準備なく政治斗争へと転化して行つたことである。個別から普遍へと目的意識的展開しない限り大衆斗争は必ず自己崩壊せざるを得ないのである。